

A night landscape of a valley with a river and fireflies. The scene is dark, with a deep blue twilight sky. In the foreground, a river flows through a lush green field. Numerous fireflies are visible, their light glowing in the dark. In the background, a small town or village is visible, with some lights on. The overall mood is peaceful and serene.

継ぐ

特集

# 大切なものを未来へ

～いま私たちにできることは～

## 未来の真庭へ伝え、残していくために

ホタルの名所として知られる備中川の上流域では今年もたくさんのホタルが現れ、感動的な光のショーを見せてくれました。このように、真庭には未来に伝えたいものがたくさんあります。自然や歴史、伝統など、これらを残していくために私たちは何ができるのでしょうか。今回は、真庭で大切なものを守り継いでいる3つの取り組みを紹介します。その姿を見て、私たちにできることを考えてみましょう。

# ホタルと人の関わりとその歴史



乱舞していたホタル

「ホタルを守ろう！」  
保護活動のはじまり

昭和34年、当時の北房町は乱獲に歯止めをかけようと、ゲンジボタルを町の天然記念物に指定。そこからホタル保護の機運



昭和47年の豪雨で氾濫した備中川

などして、精力的に保護活動に取り組みました。また、地域の小学校でも、ホタルの餌となるカワニナを増殖池に集めるなど、地域を挙げての保護活動がスタートしました。

**集中豪雨で壊滅的被害  
川から姿を消したホタル**

保護活動が軌道に乗ろうとしていた矢先、昭和47年に記録的な集中豪雨が日本列島を襲いま



増殖場でのホタル学習(昭和50年代前半)

戻ってきたホタル  
まちおこしのシンボルに

改修が終わった備中川にはやがて中洲ができ、草が生い茂るようになりまし。ホタルを守り育てる会や地域住民の活動も地道に続けられ、昭和50年代の後半から徐々にホタルが増えはじめ、昭和59年にはホタルまつりが始まり、ホタルでまちを盛り上げようとする機運が高まっ

ていきました。平成5年、ホタルを守り育てる会は、住民主体の「北房町ホタルを育てる会」として再結成。生態研究やホタル観賞のガイドなど活動の幅を広げていきました。また、この年には下皆部の備中川沿いにほたる公園が完成。これを機に大勢の観光客がホタル観賞に訪れるようになり、全国に知られるホタルの里となりました。

**ホタルと人が  
共生する時代へ**

人ではぎわうようになった一方で、自動車などの人工の光が、ホタルの繁殖行動を阻害するといった『光害』を心配する声が上がりはじめたのがこの頃。ホタルを育てる会も平成19年に「北房ホタル保存会」と改称し、観賞マナーの啓発や遮光ネットの設置などに取り組みようになりました。ホタルがまちおこしのシンボルから人と自然の共生のシンボルへと変わっていくに従い、有志で出していた夜店も自粛するようになり、まつりも平成23年を最後に終了しました。しかし現在、地域の有志が夜店を再開し、ホタルに害がないように工夫をしながら、おもてなしをしています。

ホタルはどやって守られてきたか、どうして今の風景があるのか、その背景である人との関わりと歴史を紹介します。

**農業、乱獲…  
減っていったホタル**

北房地区の備中川流域は、昔からホタルの生息地として知られていました。しかし、強力な

農薬の使用や乱獲などが原因で、昭和30年ごろからホタルは激減。川沿いを乱舞していた風景は過去のものとなりつつありました。

が高まり、昭和45年に行政が主体となって「ホタルを守り育てる会」を結成しました。翌46年には孵化室と増殖池からなるホタル増殖場を整備し、会員は雌ホタルを採集して孵化室に放す

した。備中川は氾濫し、堤防の決壊や家屋の倒壊を引き起こすといった大惨事となりました。川底がさらわれ、そこから河川改修が急速に進んだことからホタルの生息環境が一変。ホタルが乱舞していた備中川は、ホタルがすみにくい川へと変わってしまいました。



ホタルは地域全体で守ってきたものです  
この環境を残していくためには  
常に関心を持ち続けることが大切

なん じょう やす ゆき  
南條保之さん(下皆部)  
北房ホタル保存会 会長

ホタル保護活動の中心的役割を担ってきたのが北房ホタル保存会。会長の南條保之さんに、ホタルを取り巻く環境の移り変わりと地域の取り組みなどについてお話を伺いました。

### 「河川環境が激しく変化 それでも戻ってきたホタル」

ホタルの保護活動が本格的に始まったのは昭和45年。行政が主体となって「ホタルを守り育てる会（現北房ホタル保存会）」を立ち上げ、増殖場も整備して、まさに町を挙げた取り組みでした。しかし、活動が軌道に乗ろうとしていた矢先の昭和47年、集中豪雨に見舞われました。とにかくものすごい雨で、夜が明けて外に出ると橋はほとんど流れ、道路の舗装も剥がれていました。「これは大変だ」とがくぜんとしたのをよく覚えています。そこから急ピッチで河川改修が進み、川の環境が変わっていきました。住民生活の安全が第一ですから、その頃はホタルのホの字も言える雰囲気ではなかったように思います。それでも、この間も会員や小学生らによる保護活動は地道に続けていました。河川改修が終わって5年

ほどたった頃でしょうか、やがて川に中洲ができ、草も茂るようになってきました。生息環境がよくなってきたからだと思いますが、ホタルが少しずつ増えるようになってきました。

### 「過去の取り組みが 現在の保護活動につながる」

ホタルが戻ってくると、ホタルまつりを開いたり、ほたる公園を整備したりと、ホタルでまちを盛り上げようと活気きました。保存会では、ホタルガイドや河川の清掃などにも取り組むようになりました。視察といった形でのお客様も増えて、「ホタルの養殖の仕方を教えてほしい」といった方も中にはいました。ですが増殖場に雌ポタルを放していたのも、正直なところどれほど効果があったのかは分かりません。「あれは雌ポタルを殺しとっただけなんじゃないかなあ」という人もいま



す。上流には河川改修をしていない場所もありましたから、そこからホタルがやってきたのかもしれない。ですが、そういった過去の取り組みの中でホタルの生態が分かるようになって、今の保護活動につながっていますから、十分に意義のあったことだと思えます。

### 「地域全体に息づく ホタルを守ろうとする動き」

ホタルが暮らしやすいこの環境を守り続けることが、現在の私たちの役目でしょう。保存会では、10年ほど前に農業用の遮光ネットをほたる公園前の川沿いに設置してみました。これが意外に効果を発



ホタルの研究成果を発表する水田小学校の児童ら

## この大切な自然を残していこう！ 北房ホタルの発表会

6月13日、北房文化センターで北房ホタルの発表会（北房ホタルの文化推進継承の会主催）が開かれました。ダンスや歌の発表のほか、北房の4小学校の児童が地域の「ホタルおじさん」と一緒に学んだ研究成果をステージ上で披露。また、ホタル保護の歴史や自然の大切さをストーリーに盛り込んだ「ホタルっ子ミュージカル」を演じ、発表会を締めくくりました。この発表会は、地域のホタルを文化のひとつとして残していくことを目的に開かれており、今回が3回目。



発表会を締めくくったホタルっ子ミュージカル



## 足元照らす 優しい明かり

地元の皆部商店会では、ホタル観賞月間になると常夜灯を備中川沿いにともします。2kmに渡って約90基を設置。観賞に訪れた人の足元を優しく照らしてくれます。

揮し、ホタルが高く舞うようになりました。以来、自動車の通行が多い場所に毎年設置しています。また、川沿いにある街灯の消灯のほか、民家では明かりを川に漏らさないようにと心掛けていただいています。地域の皆さんはやっぱりホタルのことをよく知っています。地域全体でホタルを守る取り組み、観賞しやすい環境づくりができていないのではないのでしょうか。一方で、音楽イベントや生態研究の発表会など、ホタルで地域を盛

り上げようという動きも形を変えながら続いています。

「この当たり前の風景に  
常に関心を持ってほしい」

北房地域では、どの川にもたくさんホタルがいます。私たちににとっては普通のことですが、関心を失ってしまうと、この風景が当たり前のものでなくなるかもしれません。ですから、常に関心を持ち続けることが大切でしょう。子どもたちもいつかふる

さとを離れて暮らすときがくるかもしれません。そのときには「真庭には日本一の風景があるんだぞ」と、ふるさとを自慢してもらいたいですね。地道に活動を続け、この環境をこれからも守っていきたいです。

ホタル観賞月間を前に、河川沿いに遮光ネットを取り付ける北房ホタル保存会会員。(5月30日)



## ホテルでこんなに人が集まる季節 課題をクリアしながら もっといいものにしていきたいです

毎年6月、ホテルと音楽で地域を盛り上げようと開かれるホテルロック。実行委員長の大柳博さんに、イベントに対する思いを伺います。



おおやなぎ ひろし  
大柳 博さん(上水田)  
ホテルロック実行委員会 委員長

ホテルロックは今年で15回目。県外からもバンドが集まる音楽イベントです。今年からやってきてくれました。実行委員会では2月ごろから準備を始めて、シーズン直前には河川の清掃をします。ホテルの季節にやらせてもらってますからね。今年はメンバーだけでなく地域の皆さんにも声を掛けて、大勢で取り組むことができました。

実行委員長としてやってみたいところがあるのですね。いろいろなと思うところがあるのですね。私としては、地域の方の工夫や努力は必要です。ホテルで人が集まる時期なんです。課題をクリアしながら、いいものにしていきたいですね。そのためにはやっぱり仲間や協力者が必要です。幸い人と人のつながりには恵まれたメンバーだと思いますし、今回は子どもたちの参加もありました。私も10年ほど前にたまたま通りかかっただけで、今こうして関わっています。だから、ちょっとでもやりたいなと思えば、声を掛けてもらえたら嬉しいです。歌が歌えなくても、楽器が弾けなくても気にすることはないですよ。だって私自身、音楽経験ゼロなんですから。



4月26日に行った河川沿いのごみ拾い

あるのですね。私としては、地域の方の工夫や努力は必要です。ホテルで人が集まる時期なんです。課題をクリアしながら、いいものにしていきたいですね。そのためにはやっぱり仲間や協力者が必要です。幸い人と人のつながりには恵まれたメンバーだと思いますし、今回は子どもたちの参加もありました。私も10年ほど前にたまたま通りかかっただけで、今こうして関わっています。だから、ちょっとでもやりたいなと思えば、声を掛けてもらえたら嬉しいです。歌が歌えなくても、楽器が弾けなくても気にすることはないですよ。だって私自身、音楽経験ゼロなんですから。



## HOTARU ROCK 2015

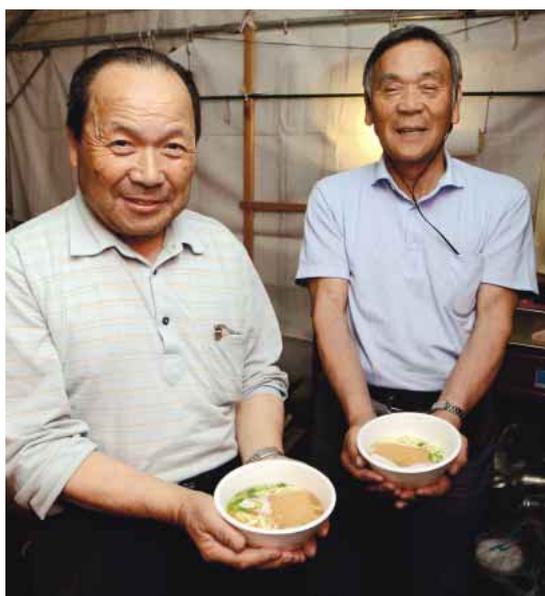
6月13日に開催されたホテルロック。会場のコスモスドームにはエネルギーあふれる演奏が響き渡りました。

# ともし続けるおもてなしの明かり

北房ホテル観賞月間の毎年6月  
観賞用駐車場から見える民家の片隅に  
1軒の夜店が明かりをともします



お客さんでにぎわうホテルうどんの夜店



佐藤 勉さん(下皆部)

友平節生さん(下皆部)

## 味は普通ですけど「ホテルうどん」 食べるもののひとつでもなげにゃあ お客さんも気の毒でしょう

ホテルを見にやってくるお客さんのために、温かいうどんを出し続けてきた佐藤勉さんと友平節生さん。お二人にその心意気を伺います。

ホテルが舞う季節にうどんを出し始めてほぼ20年。以前は皆部の商店会でホテルまつりをやっていたし、ほたる公園で有志が集まって夜店も出していましたから、ホテルの時期にはみんなにぎやかにやっていたものです。ですが、夜店の明かりがホテルに良くないという声が出るようになって、みんなにぎやかなことは控えるようになって、ホテルまつりもなくなりまし。実は私たちが2年ほど店を出さなかった時期がありました。でも、大勢のお客さんがホテルを見に来てくれていましたから、「せつかく遠くから来てくれるのに、食べるもの

が一つもないようでは」と思い、夜店を再開しました。近所の仲間と5人ほどで続けています。

北房では6月が「ホテル観賞月間」です。ですから、6月1日から約1カ月がこの夜の店の開店期間。おもてなしが目的なので、雨が降ってもお客さんの姿が一人でも見えたらその日は営業日です。味はいたって普通ですが、名付けて「ホテルうどん」。だって、ホテルの時期にしか出していないんですから。

このホテルは本当にすごいと思います。地域で守ってきたホテルをよその人が見に来てくれるのはとてもうれしいことです。私たちももう結構な年ですけど、体力が続く限り、そしてホテルを見に来してくれるお客さんがいる限り、この「ホテルうどん」を出し続けますよ。



ホテルを守り地域を育てる人たちの姿を見てきましたが大切なものを守ろうと活動している人たちが真庭には大勢いますここからは、その中から2つの取り組みを紹介します



## 守ること、続けること、その思いを聞く

真庭市には、国指定の重要文化財となっている建物と踊りがありますひとつは「旧遷喬尋常小学校」の木造校舎、そして、もうひとつはお盆に蒜山地域で踊られる「大宮踊」それらを守ろうとする新たな動き、守り続けているその姿を見てみましょう

### 同じ思いの仲間が自然に集まって自分たちが楽しんでいるからこんな活動ができるんでしょうね

「なつかしの学校給食」を中心とした取り組みで、旧遷喬尋常小学校を活用しているまにワッショイ。代表の岡本康治さんにその思いを伺います。



おかもとこうじ  
岡本康治さん(久世)  
市民応援団・まにワッショイ代表

## 旧遷喬尋常小学校

きゅうせんきょう  
じんじょうしょうがっこう

まにワッショイは、平成22年にほんの数人からスタートしました。まちを元気にできないかと考えていた時に、「なつかしの学校給食をやってもええないか」と相談を受けたんです。当時たまたま知った『頼まれごと』は試されごとという言葉に突き動かされ、今に至っているという訳です。幸い協力者も徐々に増えて、今やメンバーは50人以上。この木造校舎で学んだ卒業生も

真庭を元気に、という同じ思いを持った人同士が自然に集まったのがまにワッショイ。入るための手続きなんてありません。心でつながっているからそれでいいんです。そんな仲間と楽しみながらやっているから、続けていけるんでしょうね。まにワッショイは、これからも楽しみながら、頼まれごとを一つずつこなし続けていきます。

大勢います。今でもこの学校給食がまにワッショイのメイン事業です。昨年、メンバーの中から「配膳ポイズ」という音楽ユニットが生まれました。曲の売上げを校舎の改修費に充てようと意気込んでいるところなんです。学校給食は季節限定ですから、その他にも校舎を使った音楽イベントや古民家の活用などもやっています。最初は商店街の活性化のつもりで始めたことが、仲間にも恵まれて少しずつ広がっています。

## 心でつながる真庭の応援団「まにワッショイ」のカタチ



福井章雄さん(蒜山上長田)  
大宮踊保存会 会長

伝承することに秘策はありません  
先輩方の取り組みを受け継ぎ  
とにかくみんなで踊り続けています

大宮踊を守り続けているのが大宮踊保存会。  
会長の福井章雄さんに、大宮踊とその取り組みに  
ついて伺います。

# 大宮踊

おおみやおどり

## 大人も子どもも輪の中へ 地域に根を張る伝統の踊り

大宮踊は、8月13日から19日にかけて、蒜山地域の神社やお寺、辻堂などで踊られる盆踊りです。踊りは「あおい」「しっし」「まねぎ」の3種。起源や由来、「ウワハンヨウ」といった音頭の中に出てくる言葉の意味は実は分かっているというんです。とにかく古くからあるということだけは確かかなようです。各地域で踊り継がれてきたものですから、その場所によって少しずつ違っていて面白いですよ。

大宮踊保存会は踊、音頭、シリゲ、賛同協力の4つの部会で構成しており、発足は昭和11年ですから、来年で80年目を迎えます。踊り継承の基本となるのは、お盆に向けて6月から始まる住民向けの練習会、小中学校での練習会です。練習会は昔はありませんでしたから、意外と子どもより大人が踊れなかつたりもします。実は私もその一人で、踊りも音頭もできません。

一度お盆に見に来ていただければ分かりますが、大人も子どももどんだん踊りの輪の中に入れていくんです。これが大宮踊です。昔に比べれば、お盆に大宮踊をする地域は減ってきました。ですが最近、地域で復活させようとしている若者たちがいます。小学校のときに踊りを習った子どもたちが成長し、継承に一役買ってくれています。先輩方の取り組みのたまものでしょう。保存会としては、こういった伝統をしっかりと受け継いで、とにかくみんなで踊り続けていきます。



大宮踊保存会 12ページへ



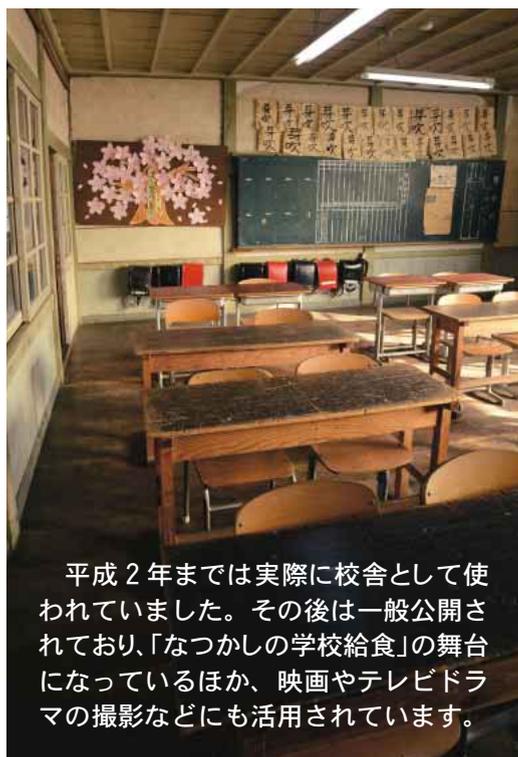
市民応援団・まにワッショイ 10ページへ

# 明治40年建築の木造校舎 使って活かす！活かして守る！



## 守りたい 校舎

旧遷喬尋常小学校は、明治40年に完成した木造校舎。日本の学校建築の設計基準が確立した後の明治後期の代表的学校建築のひとつとされています。（下の写真は明治40年の校舎落成時の様子を写したもの）



平成2年までは実際に校舎として使われていました。その後は一般公開されており、「なつかしの学校給食」の舞台になっているほか、映画やテレビドラマの撮影などにも活用されています。



# なつかしの 学校給食

旧遷喬尋常小学校で昔懐かしい学校給食を食べるといのもので平成19年に始まりまし  
た。平成22年からまにワッショイが主体で実施。セーラー服や学生服の貸し出しもあり、  
観光や同窓会などの企画として大人気です。とある日の学校給食にお邪魔してみました。



調理を担当するのは、  
かつて「給食のおばち  
ゃん」だった人たちが  
中心。“本来の味”を追  
求しています。大人数  
の調理をてきぱきとこ  
なしていく姿はさすが。  
さて、今日のメニューは？



この日のメニューはハ  
ムカツと野菜サラダにコ  
ーンシチュー。コッパン  
と牛乳は定番ですね。ミ  
ルメークは、牛乳を少し  
飲んでから入れましょ  
う。なつかしの味にみん  
なの顔もほころびます。



ごちそうさまのあとは、  
なぜか歌う（歌わせる）  
のがまにワッショイ。「ふ  
るさと」をみんなで合  
唱して給食の時間を終  
えます。いちばん思い  
を馳せているのは、彼  
ら自身かもしれません。



## 配膳ボーイズの地域応援ソング “あなたによそいたくて”全国発信中!

まにワッショイから生まれた音楽ユニット・配膳ボーイズ。彼らが歌う地  
域応援ソング“あなたによそいたくて”が全国に発信中です。作詞作曲  
をメンバーで手掛け、昨年6月にリリース。今年3月には東京のイベ  
ントで披露し、全国デビューを果たしました。現在インターネットで有料  
配信中で、売上げから諸経費を除いた全額を、旧遷喬尋常小学校校舎の  
補修工事のために寄附をすると意気込んでいます。「目指せ紅白歌合戦出  
場!」を胸に秘めながら、歌い続けています。皆さん、ぜひ応援を。



御神燈

初めての人も、久しぶりの人も、  
とにかく一緒に踊ってみんさい!



福田神社の拝殿内で所狭しと踊る(平成26年8月15日)

伝えたい  
**踊り**

## 大宮踊 練習会

大宮踊は平成9年に国の重要無形民俗文化財として指定。しなやかで優しい動きや仕草は舞を思わせ、風になびくシリゲとともに幻想的な雰囲気演出します。  
(下の写真は昭和15年ごろの福田神社)



写真上：締太鼓は縄のバチで威勢よくたたきます 左上：踊りの輪の中では子どもたちが手とり足とり指導してもらう姿も 左：若者も参加し音頭で踊りをリードしていきます



## 大宮踊とシリゲ



「踊りと一緒にシリゲという伝統を地域にしっかり残していきたい」と語る、シリゲ部会長の美甘榮枝さん



踊りの輪の中心にある大灯籠の下に吊り下げられている切り抜き絵が「シリゲ」。大宮踊には欠かせません。その名の由来は、灯籠の尻に下げるから、灯籠の油を舐めて来る妖怪の魔除けに動物の尻の毛をぶら下げたから、など諸説ありますが、いずれも定かではありません。大宮踊保存会のシリゲ部会では、踊りの練習会に合わせて講習会を開いたり、蒜山の小中学校の授業で作り方を教えたりと、伝統細工を地域に残す取り組みを毎年行っています。



子どもたちも楽しみながらシリゲ制作に取り組みます



蒜山歴史大学(最終回)

## 徹底解明・大宮踊の研究

踊りの由来は？「ウワハンヨウ」の意味は？  
謎が多く残る大宮踊について、蒜山郷土博物館の館長・前原茂雄さんが、新たな知見で語ります。

8月2日(日)  
13:30~  
蒜山郷土博物館



- 受講料 300円
- 定員 50人
- 申し込み・問い合わせ先  
蒜山郷土博物館 TEL/FAX7-66-4667

毎年6月になると、週1回の大宮踊の練習会が始まります。時間になると締太鼓の「ドン」という音が響き、それを合図のようにして踊りの輪がだんだんと広がっていきます。別室ではシリゲ作り講習会も開かれ、お盆に向けた準備が着々と進んでいきます。

